

# 第1回和光市公共施設マネジメント実行計画検討委員会

## 会議要旨

開催日	令和2年1月24日(金) 午後2時00分～午後4時00分
開催場所	和光市役所3階 庁議室
出席者	中川委員、矢部委員、松宮委員、玉川委員、牧委員、稲葉委員、橋本委員
欠席者	なし
事務局	白川課長、岡田主幹、森田統括主査、村山統括主査、清水主任、酒井主査
次第	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 委員委嘱</li> <li>2 委員・事務局紹介</li> <li>3 第1次和光市公共施設マネジメント実行計画について             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 実行計画の概要説明と取り組み状況</li> <li>(2) 質疑</li> </ol> </li> <li>4 第2次和光市公共施設マネジメント実行計画のスケジュール             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 計画策定までの全体スケジュール</li> <li>(2) 質疑</li> </ol> </li> <li>5 次回開催予定の連絡</li> </ol>
傍聴者	0人

<b>開会</b>	
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>○配布資料の確認             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 次第、委員名簿、資料1～3は、事前に送付済である。</li> <li>・ 資料4は本日配布した。</li> </ul> </li> <li>○会議の公開について             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市民参加条例第12条第4項に基づき、公開とし、傍聴席を設けている。</li> <li>・ 会議録は同条第6項の規定により公開する。</li> </ul> </li> </ul>
<b>1 委嘱・任命</b>	
<p>委嘱状により委員を任命した。</p> <p>委員会設置要綱第3条第2項に基づき、委員長に中川委員、副委員長に松宮委員が選出された。</p>	
<b>2 委員・事務局紹介</b>	
委員および事務局の自己紹介を行った。	
<b>3 第1次和光市公共施設マネジメント実行計画について</b>	
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>●<b>実行計画の概要説明と取り組み状況の報告</b></li> <li>○第1次和光市公共施設マネジメント実行計画の概要説明と、第1次期間の取り組み状況の報告を行った。</li> </ul>
● <b>質疑応答</b>	

松宮副委員長	<p><b>○学童クラブの新設についての質疑</b></p> <p>予定外の学童クラブ 2 棟の新設について、小学校区ごとの児童数の推計予測は出しているか？また、今後児童数が増えて学童クラブを増設が必要なエリアの見込みは立っているか？</p>
事務局	<p>「第1次和光市公共施設マネジメント実行計画」の 1 頁にあるように、児童数の推計は算出済み。6-11 歳の将来人口は、令和 2 年の時点では 4,350 人が、令和 17 年には 3,795 人に減少すると予測を出している。ただ、和光市ではマンションの増設など、社会的要因による増減があるため、見込みの数値で将来数を正確に算出するのは困難である。</p>
事務局	<p>「和光市小中学校個別施設計画」で、小学校区ごとの児童生徒数の推移を出している。また、長期的な生産年齢人口の推計は現在策定中の「第五次和光市総合振興計画」の中でも出す予定である。</p>
中川委員長	<p>地区別の将来人口の予測は様々な要因があるため、なかなか計画通りにはいかないものである。ここで課題として取り上げているのは、学童クラブの新築計画がマネジメント実行計画で予定されていない施設整備として行われていることが問題である。</p> <p>第 2 次計画策定時にはマネジメントの方法を考える必要があり、きちんとした将来人口推計に基づいて行われたかという確認作業が必要である。</p>
矢部委員	<p><b>○公共施設の保有総量抑制についての質疑</b></p> <p>「第1次和光市公共施設マネジメント実行計画」の 10 頁では「保有総量抑制(統廃合)自体が目的ではない」と記載があるのに対し、19 頁では KPI として「総量抑制にかかる削減目標」を掲げている。</p> <p>実行計画では、学校施設整備や小学校区を中心とした周辺施設整備がテーマとなっているようだが、そのテーマと総量抑制すべき施設の関係性など、二つの整合性はとれているのか？</p>
事務局	<p>和光市はいまだ人口微増の状態であり、現時点では施設の総量圧縮を図っていくフェーズにはない。この後人口減少の下り坂に差し掛かった時にどういう風にブレーキを踏んでいけるかが重要であるが、現時点ではブレーキとアクセルをバランスよく使い分けながら計画を進めている状態である。</p> <p>国の方針では、床面積の削減を目標に掲げるよう推奨しているが、削減単位を「床面積」ではなく「更新費用」とすることにより、トータルでの総量抑制に繋がれば良いと考えている。</p>
矢部委員	<p>時間軸に対する概念が付与されているということですね。理解しました。</p>
中川委員長	<p><b>○第1次期間の進捗状況から推察した今後の方針</b></p> <p>施設更新費について、短期目標で投資可能額を施設白書試算値から約3割削減としたこと、及び長期目標で約 1 割削減としたことは整合的であり、評価できる。</p> <p>ただ、今後、学校の建替えや大規模改修等が大きな事業として控えていることを鑑みると、第3次期間がたいへん厳しい状況で、第4次期間でひといきつけそうな状況になりそうではないですか。</p>

	<p>第2次計画策定においても、第2次期間内だけの計画を考えるのではなく、第3次期間の大きな山を凌ぐために施設更新を先送りするのか、第1次期間の貯金を使うのか等を含めて、もっと大きなストーリーについて議論すべきではないか。</p>
事務局	<p>第4次期間では、マネジメント実行計画以外で進めている清掃センター改築プロジェクトが入ってくるので、ひといきつける状況ではない。したがって、マネジメント実行計画サイドでブレーキを踏む必要があるので、施設更新を先送りすることはできない。ただ、計画をこなしていくだけでは、第3次期間以降で立ち行かなくなる可能性がある。</p>
矢部委員	<p>清掃センターなど、公共施設マネジメント計画外にあるプロジェクトにどういふものがあるのか、その計画期間も含めて把握しておきたい。そのほうがマネジメント実行計画での議論がしやすい。</p>
松宮副委員長	<p><b>○第1次期間に実施した借地の一部解消についての質疑</b></p> <p>「第1次和光市公共施設マネジメント実行計画」の38頁を見ると、借地の上に立つ建築物は相当数あるように見受けられる。中でも大きなものは、総合体育館と総合福祉会館であり、その2棟の借地解消について今後動きはあるのか？</p>
事務局	<p>38頁では借地と占用を同列に表記している。総合体育館は埼玉県保有の樹林公園の占用であり、総合福祉会館は外環上部の占用である。この2棟は市が購入できるものではなく、今後も占有を続ける形となる。</p> <p>ただ、総合体育館については、開設当初は占用料不要で指定管理料を払っていたが、途中で、占用料を払う代わりに指定管理を中止する方向に舵を切ったという事例がある。</p>
松宮副委員長	<p>理解しました。では、土地の賃貸借料を下げるという観点においては、借地の大半が解消したという解釈でよろしいか？</p>
事務局	<p>第三小と下新倉小が残りの大半を占める借地ということになるが、いずれも官民含めて複数の地権者の借地を有している。</p> <p>なお、申し添えておきたい事項として、小学校の借地が全解消したわけではない。今回一部について購入できた段階なので、第三小については全部の借地のうち約30%、下新倉小については約13%が解消した程度である。複数の民間の相手方があることなので、なかなか借地の一括購入は難しい。</p>
玉川委員	<p><b>○地域のコミュニケーション促進についての質疑</b></p> <p>公共施設の建替・改修をきっかけとした地域のコミュニケーション促進とは、「学区間内での移動」を指しているのか、「学区間をまたいだ移動」のどちらかを想定しているか、具体的なイメージはあるか？</p>

事務局	<p>「学区内での移動」と「学区間をまたいだ移動」、その両方をターゲットとし、拠点間移動に影響してくると思っている。</p> <p>和光市は地下鉄を含めた3つの路線の乗り入れに加えて、外環が市内を縦断し、2か所のインターチェンジがあり、優れた交通アクセスがある。</p> <p>和光市の首都圏における位置づけとして、「交通拠点」としてのポジションをとっていくのがまちおこしになるのではないかと考えており、前述の2つに加えた3層構造で組み立てたいと考えている。</p> <p>その目標に向かって公有資産をいかに活用していくかを考え、公共施設の配置を生かして、拠点間移動の促進を行っていききたい。</p>
玉川委員	<p><b>○インフラの個別施設計画についての質疑</b></p> <p>道路など、インフラに関する個別施設計画は、どのような計画があるか？</p>
事務局	<p>道路の個別施設計画は既存の道路補修の修繕計画であって、区画整理道路の計画等は別途行われている。地域公共交通を所管とする部署はまだ和光市にはなく、いまようやく事務局らしき姿が生まれつつある段階である。</p>
稲葉委員	<p><b>○公共施設マネジメントの役割についての質疑</b></p> <p>和光市をいきつくところのような「まち」にしたいか、市民に提示されている資料はあるか？</p> <p>また、公共施設を新設するのではなく、人口減少に対応するために民間の施設を借り上げる等の手法を取っていくのはどうか。</p>
中川委員長	<p>和光市は「立地適正化計画」は策定されているか？</p>
事務局	<p>策定していない。</p>
中川委員長	<p>「和光市公共施設マネジメント実行計画」は、財政面のサステナビリティを考慮して、施設面でしたいということを表現した資料であると考えている。</p> <p>まちづくりのビジョンは都市計画に反映させるべき事項であり、当実行計画とはやや方向性が異なると思う。</p>
事務局	<p>まちづくりプランは市の上位計画である「和光市総合振興計画」に入れるものであり、現在第五次計画を策定中である。</p>
中川委員長	<p>和光市もいずれ人口は減少するが、多くの市町村に比べると程度は軽微である。そのため「立地適正化計画」を今すぐ策定する状況ではないと感じている。</p>
事務局	<p>今はまだ策定の有無に至る議論さえもなされていない。大阪の箕面市のように、人口の動態とかを適正にとらえてまちづくりを行うのであれば意味があるかもしれないが、市としては「立地適正化計画」を作るかどうかは議論されていない。</p>
中川委員長	<p>現状議論が起きていないのだとしても、市民に対してビジョンを示すことは意義があると思うし、第1次計画の中にもあるように、市民とのコミュニケーションをとるための絵はあったほうが良いと思う。</p> <p>都市計画や総合管理計画への反映についても、第2次計画で我々委員会と一緒に検討したほうが良いと考えている。</p>

橋本委員	「立地適正化計画」については議会からも策定を求める意見が上がっているが、市自体がコンパクトなためそこまでの危機感はなく、策定の必要はないと回答している。
中川委員長	和光市は埼玉県の中でも一番人口減少が少ない市町村ですね。
橋本委員	そうですね。
松宮副委員長	「立地適正化計画」だけに留まらず、長期的に第2次期間、第3次期間以降まで含めた20～30年後の視野が公共施設マネジメントには必要である。 和光市で今後人口増が見込まれるエリアとしては、まず、区画整理中の北側エリア。それに加えた予想としては、大江戸線の延長による大泉学園サイドの南側エリア。(仮称)大泉町駅のあたりから徒歩圏内では人口増があると想定される。
松宮副委員長	また、今こそ「都市計画マスタープラン」と「立地適正化計画」を考えたまちづくりを考えるやりどきではないか。成功すれば、国内でも類を見ない計画となるだろうし、相当のポテンシャルを秘めていると思う。
中川委員長	暗い話題が多くなりそうな中で、今のような話を盛り込みつつ、コミュニケーションしていくことは非常に重要だと感じた。
牧委員	私は市内在住なので、内側だと見えにくい、外側から俯瞰した意見が非常に新鮮に感じられる。
中川委員長	総量抑制だけでなく、和光市の未来とセットで話すほうが、市民からも合意を得られやすいと思う。
<b>4 第2次和光市公共施設マネジメント実行計画のスケジュール</b>	
事務局	●第2次計画策定までの全体スケジュール ○検討委員会の令和2～3年度のスケジュール説明を行った。
	●質疑応答
松宮副委員長	○「和光市小中学校個別施設計画」についての質疑 第2回議題に「和光市小中学校個別施設計画」が書いてあるが、学校をメインテーマとなるのか？
事務局	第1次計画の中では学校を軸に考えている。今年度策定された「和光市小中学校個別施設計画」の中では、第1次計画で想定している順と変更になっている箇所もあるため、第2回できちんと資料の説明を行う予定である。
事務局	教育委員会で策定している「和光市小中学校個別施設計画」というのは、建物の劣化度合いにあわせて適切に改築や改修を行うための、学校単体の計画であって、周辺施設を取り込んだ複合化等の計画は盛り込まれていない。 まちづくりや政策的な配慮は一切含まれていないため、第2次計画の中で検討していきたい。その検討において、「和光市公共施設マネジメント実行計画」と「和光市小中学校個別施設計画」と齟齬が出ることはありえる。
中川委員長	「和光市小中学校個別施設計画」の期間はどれくらいか？
事務局	令和2年から令和41年までの40年間である。

中川委員長	令和 41 年頃には児童の数も減っていることが予測される。その時にすべての小中学校を長寿命化あるいは改築するという計画で進んでいるということですか？
事務局	<p>「和光市小中学校個別施設計画」ではまず、小中学校の劣化診断を行い、長寿命化の可否を調べた。例えば、第五小は調査の結果、強度が不足しているため長寿命化が不可能であることが判明したため、当初想定から方向性が変わった。</p> <p>小中学校は敷地の中に複数の棟を所有しているため、棟ごとにまとめてグルーピングするところまでは個別施設計画の中でまとめている。また、長寿命化改修を平準化した場合の費用の算出まで行っている。</p> <p>長い目で見た場合、長寿命化せず、周辺施設と複合化して建替えしたほうが良いなど、学校以外の建物と連携した計画に替わっていくと思う。</p>
中川委員長	松宮副委員長の話にもあったが、コミュニティごとの減少人口の予測が立つのであれば、事務局はその資料を第2回委員会開催時に用意しておくこと。長寿命化計画と並べて検討したいので、議論がはかどると思う。そもそも論として、長寿命化が必要なのか、周辺施設を取り込んで複合化が望ましいであるといった意見が出てくるのではないか。
松宮副委員長	小中学校の劣化診断は全部の学校について行ったのか？優先順位を決めて、古い学校だけ実施したのか？
事務局	<p>古い学校を優先してコア抜きを実施し、コンクリート圧縮強度、中性化深さの健全性を診断した。</p> <p>上記以外の学校は、耐震補強工事の際に行った耐震診断報告書に上記の診断結果の記載があるため、それを活用した。</p>
玉川委員	<p><b>○公共施設マネジメントのあり方について</b></p> <p>将来のビジョンを描いた上で、バックキャスト思考で 20～30 年後の将来を見据えて公共施設マネジメントを考えていかないと魅力的なまちにはならない。</p> <p>また、令和2年12月頃に市民アンケートを実施するとあるが、市民の意見を吸い上げるためにはもっと早いタイミングが良いのではないか。そのほうが市民から違う視点が出てくるのではないか。</p>
中川委員長	将来のビジョンである「第五次和光市総合振興計画」の策定の進捗はどうなっているか？中間報告はいつの段階で出ますか？
橋本委員	現時点の進捗は「策定方針」を公表したところである。また、令和2年9月議会に素案を上程する予定である。
矢部委員	学校単体をどうするかではなく、人口密度に合わせた施設管理を行うことが重要である。まちの不動産の価値を落とさないようにするために、施設についても利用頻度の低い施設には手を入れずに、人口密度が高い地域にあり、利用頻度の高い施設には手を入れる、などのコントロールが可能となるため、判断軸を設けたほうが良い。
松宮副委員長	和光市の用途地域は、低層住居専用地域は存在せず、第一種中高層住居専用地域が大半を占めており、人口の増減がマネジメントの鍵を握る。

	長期的な目線で人口減少後の姿を考えながら、マネジメント実行計画を策定していきたい。
稲葉委員	改築、改修にあたっては価値を感じる建築にすることが望ましい。ケミカルでない素材を使い、自然共生など情操教育を取り入れたほうが良い。上野公園のレストランなど、景観に配慮した建築を参考にすると良い。
中川委員長	以前、石川啄木生誕の地にある盛岡市の小学校(渋民小学校)に視察に行ったことがある。人が少ないことが難点ではあるが、市産材で造られていて色々な工夫がなされていた。教育の効果を考えたときに効果はあると思う。
松宮副委員長	建築基準法も、既存建築ストックの活用、木造建築物の整備の推進を背景とした防火に関する改正が行われているため、密集した市街地内における木造建築物や木材を使用した改修整備がしやすくなりつつある。今後10年の間には、さらに整備しやすい状況になっていくと想定できる。
<b>5 次回開催予定の連絡</b>	
事務局	事前調整のとおり、2/18(火)午後2時、場所は庁議室で行う。開催通知と事前資料については、後日お送りする。 本日の会議録を作成しますのでご確認の上、修正等がありましたら事務局へ連絡ください。修正後にホームページで公開する。
<b>閉会</b>	